

# 苫小牧駒澤大学

令和元年度 再評価  
評価報告書

令和2年3月

公益財団法人 日本高等教育評価機構



## I 再評価結果

### 【判定】

再評価の結果、苫小牧駒澤大学は、日本高等教育評価機構が定める大学評価基準に適合しているとは認められない。

## II 総評

平成 29(2017)年度の認証評価において、基準項目 2-1「学生の受入れ」については、大学全体の収容定員に対する在籍学生数に大幅な未充足の状況が続いており、抜本的な改善が必要であり、基準項目を満たしていないとし、基準 2「学修と教授」を満たしていないとした。また、基準項目 3-6「財務基盤と収支」については、大学単体では、事業活動収支差額比率がマイナスであり、収支均衡を前提とした中長期的な財政計画の策定・実行など、経営基盤の安定確保についての早急な改善が必要であり、基準項目を満たしていないとし、基準 3「経営・管理と財務」を満たしていないとした。

しかしながら、この基準を満たしていないと判断した要因となる事項については 1 年以内に改善が可能であると判断したので、再評価の結果を待って最終的に判定することとし、大学の総合的な判断を保留とした。

令和元(2019)年度に基準 2 の基準項目 2-1 及び基準 3 の基準項目 3-6 について、平成 29(2017)年度の認証評価時に指摘した改善事項の内容を中心に再評価を行った結果、基準 3 の指摘事項については、指摘した内容を真摯に受止め、指摘事項については改善されたことが確認できた。今後も継続的に自己点検・評価を行い、質の保証と改善に努めることを期待する。しかしながら、基準 2 の指摘事項については、依然として収容定員未充足の状態が続いており、収容定員に対する在籍学生数比率が大学全体で 0.5 倍を下回っており、改善されているとは認められない。

## III 基準ごとの評価

### 基準 2. 学修と教授

#### 【評価結果】

基準 2 を満たしていない。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

#### 2-1. 学生の受入れ

- 2-1-① 入学者受入れの方針の明確化と周知
- 2-1-② 入学者受入れの方針に沿った学生受入れ方法の工夫
- 2-1-③ 入学定員に沿った適切な学生受入れ数の維持

#### 【評価結果】

基準項目 2-1 を満たしていない。

**【理由】**

アドミッション・ポリシーは教育目的を踏まえて明確に定められ、大学ホームページ等の媒体によって公表、周知されている。入学者選抜はアドミッション・ポリシーに沿い、適切な体制のもとで実施されている。また、入試問題は大学が自ら作成している。

平成 30(2018)年度の設置者変更後、大学は、教育改善、広報活動の見直しなどの施策を法人と一丸となって進めている。また、学部・学科再編に向けた検討が行われている。

しかしながら、現時点では依然として収容定員未充足の状態が続いており、収容定員に対する在籍学生数比率が大学全体で 0.5 倍を下回っている。

**【改善を要する点】**

○募集停止の学科を除いた収容定員に対する在籍学生数比率が大学全体で 0.5 倍を下回っているため、改善が必要である。

**基準3. 経営・管理と財務**

**【評価結果】**

基準 3 を満たしている。基準項目ごとの評価結果と理由については、以下に述べる。

**3-6. 財務基盤と収支**

3-6-① 中長期的な計画に基づく適切な財務運営の確立

3-6-② 安定した財務基盤の確立と収支バランスの確保

**【評価結果】**

基準項目 3-6 を満たしている。

**【理由】**

平成 30(2018)年度から運営学校法人の変更があった大学は、10 年ごとの「長期ビジョン」及び 5 年ごとの「中期計画」を策定しており、「大学改革室」を中心とした学内関係委員会において、令和 3(2021)年度からの大学名称の変更を含めた学部・学科再編に向けた検討が行われている。

大学の財務については、入学定員未充足の影響による厳しい状況が続いており、平成 30(2018)年度決算においても、現物寄附による事業活動収入等を勘案すると事業活動収支差額比率は実質マイナスであるが、教育研究活動に支障のない範囲で、人件費などの削減を行うことによる財務改善に努めている。

大学は、入学定員の確保による財務基盤の確立を目指してはいるが、現状においては、大学単体としての財務基盤を安定的に確保することは困難で、大学に対する法人全体としての財政支援が不可欠である。

法人は、平成 30(2018)年 5 月 25 日に開催された理事会において、今後 3 年間における大学への財政支援策が可決され、法人としての財政支援が継続されている。また、ヒアリ

## 苫小牧駒澤大学

ングの席上での理事長の明言により、令和 2(2020)年度以降も大学としての財務基盤が確立するまでの間は、大学に対する資金的バックアップを行うという意思が確認できた。